

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	○探究的な学習過程を重視し、「私のえがお あなたのえがお 仲間のえがお」があふれる学校づくりを目指す総合的な学習の時間や生活科の授業改善 ○有効的なICT機器の活用による、学習内容の定着と主体的に仲間と共に学び続ける授業の改善と実施	B	・総合的な学習の時間や生活科の授業において、地域人材を生かした体験活動等を仕組み、生き方に関わる授業の見直しができた。 ・学習アンケート結果(5,6年生)から、約80%の児童が、ICT機器の活用により学習内容がよく分かるかと回答し、学習支援ソフトや授業支援ソフト等の活用により学習内容の定着や学びの充実につながった。	・子供たちは、落ち着いて学習に取り組みている。基礎基本の徹底を図るとともに、確かな力を身に付けるための授業改善を今後も継続して行ってほしい。 ・ICT機器等の使い方や使う場、時間を指導していく必要がある。 ・学校で地域のことを学ぶ機会を地域行事等とつなげながら設けるとよい。	・学年の発達段階に応じて、ペア学習や小グループでの学習を位置付け、個別最適な学びと協働的な学びが一体となるよう授業の工夫改善を図り、探究的な学習を充実させる。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	○地域の人的・物的教育資源の積極的な活用と「子育てプログラム」の推進による、地域に根ざした心身共に健康な児童を育む活動の充実 ○9年間の子供の育ちを踏まえて、中学校・幼稚園との確実な引継ぎと、指導の在り方等の情報交流と共有	A	・「子育てプログラム」の推進により、学校と地域、家庭が連携し、育てたい子供の姿や学校の課題を共有することができた。また、地域と関わりながら学ぶ機会を通して、児童を地域の中で育てる体制ができ、地域の方に感謝の気持ちをもって活動することができた。 ・幼稚園からの引継ぎの内容を踏まえて、入学後の支援や配慮に役立てることができた。	・登下校中の見守り隊や地域の方が、子供たちに進んで声をかけることで、自ら挨拶ができる子供たちが増えてきた。 ・幼稚園の交流は、子供たちだけでなく教員同士も交流の機会を設けたい。 ・親子で参加する行事等、子供たちの自己肯定感を高めるような企画をしていく。	・地域行事等、親子での参加率向上を目指し、子供たちが充実感をもてるような魅力ある活動を展開するとともに、学校からも家庭に働きかけていく。 ・中学校区で9年間を見通した総合的な学習の時間の再検討、改善を図る。校区内にある高校との活動も検討していきたい。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	○指導力や同僚性、スキルの向上を図るため、OJTを通じて日常的に学び合う校内研修の充実 ○職員間のコミュニケーション活性化による働きがいのある職場環境づくりと、ICTの効果的な活用による働き方改革の推進、子供と向き合う時間の確保と充実	A	・事前にアンケートを実施し、ニーズに合わせた校内研修を行うことができ、教職員の資質向上と授業実践に役立てることができた。 ・ICT機器の効果的な活用により、情報共有を図ることが定着し、共通理解のもとで指導に当たることができた。	・教師の個性や教科の専門性を生かした授業が積極的に行われている。また学校職員みんなで児童を育てるという視点で授業や生徒指導等が行われ、多くの大人と人間関係を築けていることが、子供たちの安心感につながっている。 ・子供たちの学習や自己肯定感を向上させるための取組を引き続き行っていく。	・学年担任制や教科担任制などを通して、全職員で児童理解や指導支援にあたる体制づくりを行っていく。 ・教職員の経験や実態に合わせて、学級経営や教科指導等について、学年会や校内研修を通して互いに学び合う場を今後も積極的に取り入れていく。
子どもたちが安心して学べる学校づくり	○「いじめ防止基本方針」に基づいたいじめの未然防止といじめを許さない・見逃さない意識の向上を図るための日常活動の充実 ○支援や配慮が必要な子供が学びにつながり、誰もが安心して学べる環境、居場所づくり	A	・定期的な教育相談の実施により、悩みを抱える児童の心の支えとなり、いじめの未然防止や早期発見につながっている。 ・校内支援委員会等において、個別対応が必要な児童や配慮を要する児童について、今後の方針や方策等を検討し、よりきめ細やかな指導・支援によって児童一人一人の心の安定につながっている。	・子供と向き合う時間を確保し、個の内面に迫った教育相談を充実させていくとよい。 ・配慮を要する児童に対する支援方法等についての研修や関連する資格取得に向けた研修なども取り入れていけるとよい。 ・授業参観の保護者出席率が高い。子供の近くに寄り添って親子で活動する場面があつてよい。	・SNSのトラブル防止指導やICT機器等の適切な使用について、定期的に指導を行い、いじめの未然防止に努める。また、子供だけでなく、保護者向けの研修を実施するなど、保護者を巻き込んだ指導も行っていきたい。
災害、事故に対する安全性の確保	○複数の緊急事態・災害時を想定し「自分の命は自分で守る」態度を育む命を守る訓練の実施と各種マニュアルの恒常的な見直し、改善 ○子供の命を守り安全を確保する体制の確立と、危機管理意識の向上を図るための研修の実施と見直し、改善	A	・多様な条件下の中で命を守る訓練を実施することで、「自分の命は自分で守る」態度を育み、状況に対応する力を身に付けることができた。 ・各種マニュアルの見直しと改善を行い、打合せ等で研修を実施し、教職員の危機管理意識の向上を図ることができた。	・授業参観で防災学習を実施している学年があり(5年生)、親子一緒に防災について考え、取り組む機会があった。今後も親子で取り組む活動を取り入れ、防災や危機管理に対する意識を向上させていける取組ができるとよい。	・登下校時の安全確保や災害時での対応等、「自分の命は自分で守る」意識を高め、実践につなぐことができるよう指導を継続する。 ・実際の非常変災時を想定し、中学校区合同で保護者への引き渡し訓練を実施していきたい。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	○施設設備の危険個所の早期発見と修繕、ICT機器の定期的な整備点検を図り、子供も教職員も安全・安心な教育環境作り ○財務の確実な会計処理による適正管理と個人情報の適切な管理	A	・校内の危険箇所や修繕箇所について、安全点検のみならず、日頃から全教職員で気付いた箇所を速やかに修繕等を行い、安全な環境整備に努めることができた。 ・財務事務について、複数の職員が目点検し、適切な運用、管理の徹底に努めた。	・特に夏場、熱中症対策も取りつつ、子供たちが快適に学習できる環境を引き続き整えていってほしい。(エアコンの調整、扇風機や換気扇の利用等) ・複数の目での安全点検や校舎巡回によって危険箇所の早期発見がなされ、安全な環境づくりがなされている。	・学校施設の老朽化等により、PTAや地域の協力を得ながら、今後も計画的に修繕を行うなど環境整備を進めていく必要がある。 ・財務事務については、引き続き、複数の職員が目点検し、適切な運用、管理を徹底していく。